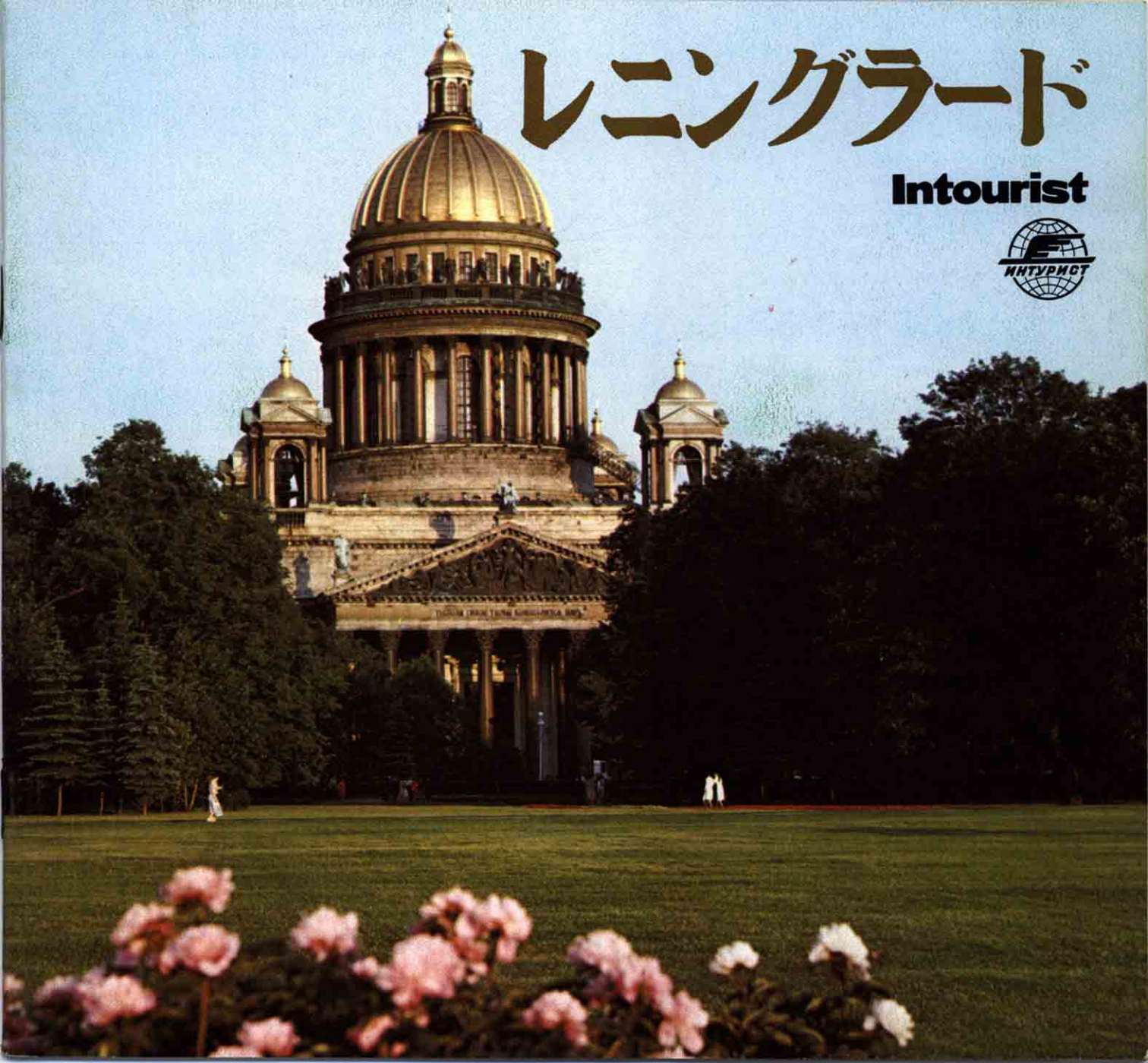


# レニングラード

**Intourist**



# レニングラード

世界の七不思議のうちの、  
どれひとつも見ることがない、  
などと嘆くことはありません。  
インツーリストの  
お世話するコースに乗れば、  
いつでも奇蹟の街  
レニングラードを  
訪れることができるからです。

レニングラードの奇蹟の第一は、何といってもこの街の生い立ちでしょう。今から281年前、見るからに荒涼としたネバ川のデルタのまん中で街づくりがはじまったのです。たくさんの沼や小川が入りくんだ湿地帯は、どこまでもぬかるみがつづき、時にはフィンランド湾から押しよせる満ち潮で水びたしになる。道路も、何ひとつ建設資材もなかったところでした。こんな場所に街をつくるなど、誰ひとりとして信じる者はいなかったでしょう。

ところが、それを信じた人がいたので、偉大なロシアの改革者ペートル一世でした。彼は、1763年5月16日、ザヤチという小島の上にサンクト・ピテルブルヒ要塞の構築を命じました。これが街の素石となったのです。間もなく造船所の建設もはじまりました。はじめての街並みが現われ、その中に、ツァー(皇帝)自身が起居した、さほど大きくない木造の家屋がありましたが、それは今でも残っており、見ることができます。

その後、この要塞はペトロパウロフスキーとよばれるようになり、街の名もサンクト・ピテルブルグと変わりました。1924年、ソビエト国家の創立者であるウラジーミル・イリイチ・レーニン(1870—1924)を記念して、ピテルブルグはレニングラードと改名されまし



た。レーニンの生涯と活動が、ネバ川に臨むこの街とかたく結びついていたからです。

はじめの頃からベテルブルグの街は、海の要塞であり、軍艦建造の中心地として、またロシアとヨーロッパを結ぶ交易の商港として栄えました。

1712年、ペートル一世がこの街を首都と定めてから、ベテルブルグは特に急速に大きくなっていきました。

『ネバ川の岸辺が石をまとい  
水面に橋々のかけが映え  
濃く茂ったみどりの園が  
ネバの島々を覆いつくした』

ベテルブルグが首都であったのは1918年までで、この年、ロシアの古都であるモスクワに再び首都が移されました。ロシアの歴史と文化の中で、ベテルブル

グは立派な役割りを果たしてきました。ここは、革命運動や進んだ学術思想、進歩的な文学や芸術の中心地でした。今日のレニングラードは、すぐれた自己の伝統をうけつぎながら、ソ連で第一級の経済、学術、文化のセンターとして、なおも発展しつづけています。この街は、460万人の市民を擁し、人口の点でも工業生産量の点でもソ連第二の都市となりました。

デカブリスト広場



ます。レニングラードには、ロシア・ソビエト文化の優れた活動家たちの生涯と創造に関係のある記念すべき場所がたくさんあります。アレクサンドル・プーシキン、ミハイル・レー尔蒙トフ、フョードル・ドストエフスキー、マクシム・ゴーリキーなどの作家、ミハイル・グリンカ、ピョートル・チャイコフスキーなどの作曲家、カール・ブリューロフ、イリヤ・レービン、ワシーリ・スリコフなどの画家たちがそれです。レニングラードは世界の最も綺麗な都市のひとつです。新旧の広場、大通り、川岸通りがかもし出すレニングラードの建築学的アンサンブルは素晴らしく、宮殿や蔭の多い公園、精巧な吊り橋りやね橋も見事なものですし、銅像も興味あります。

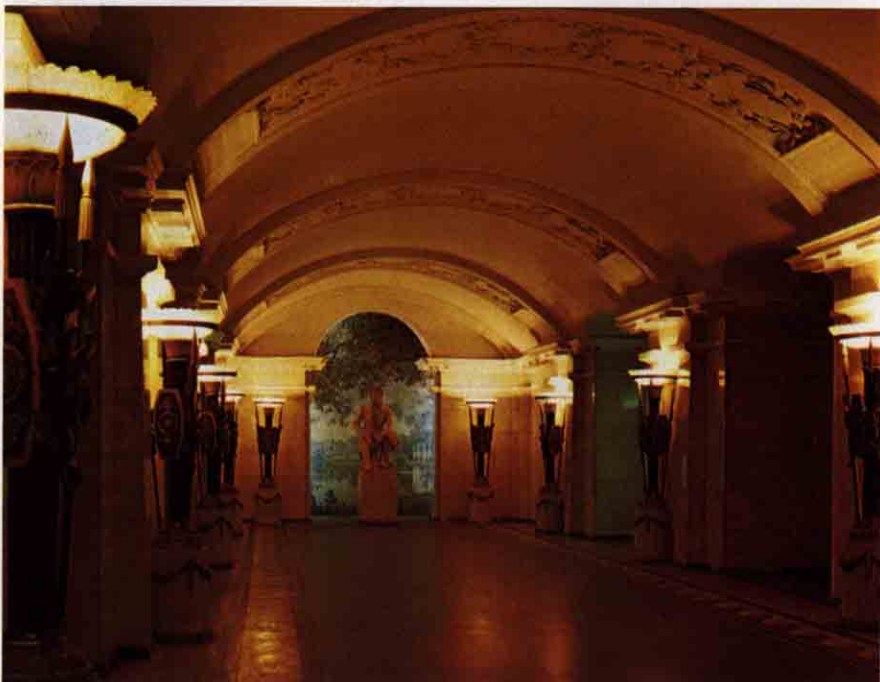
現在の行政区画から見たレニングラードの面積は、600平方キロメートル以上になります。これは、革命前のペテルブルグの広さの約6倍です。かつての郊外にあたる場所には、アフトボ、ダーチノエ、ソスノーバヤ・パリャーナ、クープチノ、ホリューストロボ、クラジダンカなどの明るく緑の多い新しい住宅団地がうまれました。ストレリナからオリギノまでの25キロメートルにわたる円弧状の海岸沿いに街づくりも進んでいます。つい最近、その中にインツーリストのホテル『プリバルチイスカヤ』の新しい建物が完成し、美観に花をそえています。

地下鉄の建設も、レニングラードの建設者が行なった奇蹟といえるでしょう。それは、この地の土質の悪条件のため、

プーシキン記念劇場  
ロシア美術館







たいへんな難工事でした。地下を掘り進む途中、粘土や危険な断層、岩石や地下水脈、地下湖などに悩まされました。しかし、こうして出来たレニングラード地下鉄の駅は、どれも地下宮殿にたとえることが出来ます。その建築設計は豪華で表現力にあふれています…

さあ、ここで、美しい建築学的アンサンブルや花崗岩で固められた川岸通り、橋や記念碑などを観賞しながら、レニングラードの通りや広場を歩いてみましょう。この素晴らしい街をつくった初期の建設者たちや、奇蹟を現実のものにしたがっての建築家たちを想い出さずにはおれなくなるでしょう。この偉大な建築学上の結譜面のページをくりながら、「森の闇から、ぬかるみの足音からうまれ出たあでやかで誇り高い」この街の栄光のありし日を探訪してみましょう。

私たちの探訪は、旧市街のどの地点からでも始められます。たとえば、ベトロボウロフスキー要塞です。ベトロボウロフスキー寺院の鐘楼の黄金色の尖塔は、遠くからでも眼につきますが、今日でもこれはレニングラードで一番高い建築物(122,5メートル)です。ベトロボウロフスキー寺院は、1712年から1733年にかけて、ドメニコ・トレジニの設計にもとづいて建てられたものですが、これは、ロシア建築史上はじめてのバロック様式の建築物となりました。

寺院の内装は、宮殿のパレード・ホールを思わせます。眼のさめるような黄

ホテル『プリバルチイスカヤ』  
地下鉄の駅

金色の表現力豊かな彫刻が、何層にも上にのびる木造の聖隔をきわ立たせています。この聖隔は、1722年から1726年にかけてヤロスラーブリの職人たちの手で造りあげられたものです。

ペトロバウロフスキー寺院は長い間、ツァー家の墓所でした。ペョートル一世もここに葬られています。

この要塞の中にはこの他、たくさんの建造物があります。造幣局、艇庫、大公墓所の建物、稜堡、政治犯の独房などがそれです。

ペトロバウロフスキー要塞は一度も敵の攻撃にさらされたことはありませんでした。長い間、ロシアの『バステュー監獄』として使われてきました。うす暗い要塞の中の独房で最初のロシアの革命家であったデカブリストたち、革命的デモクラットたち、ナロードニキ（人民派の人たち）、プロレタリア革命家たちが苦しい日々を送りました。ここには、シベリヤ流刑に送られる前のニコライ・チェルヌイシエフスキーが収容されていましたし、作家のフォードル・ドストエフスキーもいました。また、ウラジーミル・イリイチ・レーニンの兄、アレクサンドル・ウリヤノフもここで死刑にされました。

ペトロバウロフスキー要塞に立つと、ネバ川左岸にある素晴らしい建築群のアンサンブルが見えます。そこは、18世紀にこの街の中心部が移つされたところです。旧海軍省の川岸通り、デカブリスト広場を歩いてみましょう。ここで最初に眼をひくのは、馬上豊かなペョートル一世の騎馬像です。これは、偉大なロシアの詩人アレクサンドル・プーシキン（1799～1837年）が『青銅の

騎士』と名付けたものです。これは、世界の記念碑彫像の傑作のひとつです。エチエン・ファリコネはこの銅像をつくるのにほぼ12年の歳月をかけました。銅像の台座に使われている巨大な花崗岩は、重さが1600トンもあります。この巨岩をこの街まで運んだ頃は、これだけの重量物の運搬技術を世界が知らなかった時代で、技術の手腕の奇蹟といえるでしょう。1782年に除幕されたペョートル一世の記念碑は、ロシアにあらわれた初期記念碑のひとつです。デカブリスト広場（旧名、セナートスカヤ、ペトロフスカヤ）は、最初のロシアの革命家たちを記念してこの名がつけられました。1825年12月（デカブリ）、この広場で、共和政体を求め

てツァー専制に立ち向かった反乱軍が銃殺刑に処せられました。

デカブリスト広場に隣接するイサアキエフスキー広場の建築上のアンサンブルも見事なものです。広場の中央には、世界最大の丸屋根構造の建築のひとつ、イサアキエフスキー寺院（建築家はオギュスト・モンフェルラン）がそびえ立っています。40年かかって建造されたこの巨大な寺院建築は、想像を絶するばかりです。建物の外側はつぎ目のない赤みかけ石の円柱が112本も美観を添えています。寺院内には、数知れぬ美術品、絵画、彫刻、モザイクの他に、フコの振る子があり、その根軸のまわりを地球がまわっている様子がこの眼で見てとれる仕掛けになっています。

#### ネバ川の川岸通りで







イサアキエフスキー広場には1912年に建てられたインツーリストのホテル「アストリヤ」があります。また有名な彫刻家ペョートル・クロットの作ったニコライ一世像もあります。この像は、2ヶ所で支えられている騎馬像で世界にひとつしかありません。それに、広場に面して、モイカ川にかかる『青い橋』がありますが、その巾は約100メートルもあり、この街にある400以上の橋の中で最も巾の広い橋です。ほかにも興味深い建造物がこの広場にあります。

イサアキエフスキー広場から手のとどくところに宮殿広場があります。それは夏公園と旧海軍省のあいだに位置しますが、ここの最大の名所は冬宮です。1754年～1762年の間にロシアのすぐれた建築家ワルフォロメイ・ラストレーリの手になるものです。柱廊とおびただしい数の彫像や塑像がこの宮殿の外観に比べものもないほどの華やかさと威厳を与えています。かつてのロシア皇室の住まいであったこの建物は、現在、ソ連邦最大の国立芸術歴史文化博物館エルミターージュとなっています。

その中には300万点以上の展示品が収蔵されています。これらの展示品を念入りに見てまわるとすれば、人の一生を要するほどです。非常に興味深いのは、エルミターージュ特別保管庫で、その中にはツァー家歴代の家宝、スキタイの金製品、ロシア宝石貴金属製品の傑作などが収納されています。

宮殿広場には非常に興味のある歴史記念碑アレクサンドロフスキー円柱があ

イサアキエフスキー寺院

ります。これは、1812年のナポレオン軍に対するロシア国民の勝利を記念して建てられたものです。この円柱は技術的にもユニークな建造物で、つぎ目なしの円柱としては世界最大（47.5メートル）です。しかも何らの支柱も使わず、600トンという自らの重量で支えられているのです。

宮殿広場は、ソビエト国家の歴史上の最も重要な出来事に関係があります。1917年11月7日（太陽暦で10月25日）巡洋艦『オーロラ号』からの砲撃を合図に、革命的労働者、兵士、水兵たちが、冬宮に向かって突撃をはじめたのです。その時、冬宮の中ではブルジョア臨時政府の閣議が行われていました。この時

エルミタージュ

冬宮





を期して、十月社会主義大革命の勝利の進撃が全国ではじまったのです。

ゴリキー通りのないモスクワ、クレスチャク通りのないキーエフ、など考えられもしないのと同様に、ネフスキー大通りのないレニングラードということも、考えられません。

偉大な建築家たちが、この街で最も古く、最も美しい通りに、自らの署名を残しました。イワン・コロボフとアンドレイ・ザハーロフが建てた旧海軍省の建物が起点になってネフスキー大通りははじまります。アレクサンドル・ネフスキー広場まで全長4.5キロメートルですが、殆んど市街を貫通しています。アンドレイ・ボロニーヒンはカザンスキー寺院を建て、アレクサンドル・リナリディがセント・エカテリー

ナ寺院を設計、ユーリー・フェルテンはアルメニア教会の建物をつくり、ジャン・ワレン・デラモートが迎賓宮殿を建てました。ネフスキー大通りには、他にもプーシキン記念ドラマ劇場(旧名はアレクサンドロフスキー劇場。カルロ・ロッシの設計)の建物、アニチコフ宮殿、モスクワ駅、アレクサンドル・ネフスキー大修道院などの、興味ある記念碑的建造物もあります。

ネフスキー大通りにある建物は、どれも自分の運命と興味深い歴史を背負っています。

レーニンゆかりの場所には、それぞれ記念説明板がつけられています。そのうちのいくつかを紹介すると、例えば、公共図書館です。レーニンは、1893～1895年の間、この図書館を毎日のように

に利用しました。また、68番地にある家は、レーニンがボリシェビキ派の新聞「新生活」の編集業務を指導したところです。かつての市議会議事堂は、第2回全露農民代議員大会がここで開かれ、レーニンが演説しました。レニングラードには、レーニンの名と関係のある場所が全部で200カ所以上もあります。ネフスキー大通りがはじまるあたりにある一軒の家の壁に奇妙な記念物があります。「市民に告ぐ! 砲撃の際、通りのこちら側はより危険である」という警告文です。この警告文は、地球上の戦史にかつての例のなかった英雄的都市防衛戦を思い出させます。

ソ連邦の大祖国防衛戦争(1941～1945年)の時、レニングラードは、900日間も昼夜にわたってナチス・ドイツ軍



の包囲下であって、それを耐えてきたのです。爆撃も砲撃も、寒さも飢えも、レニングラード市民に対してどうすることも出来ませんでした。信じられぬほどの欠乏と犠牲をはらって、彼らは自らの街を守り抜いたのです。さきへのべた、ある家の壁に残された警告文は、レニングラードにある、数多くの戦争を想いおこさせる記念物の中の、ほんのひとつにすぎません。その記念すべき場所の中で最大のもは、ピスカリョーフスキー戦没者墓地です。ここには、包囲下で斃れた数10万人のレニングラード市民と兵士が葬られています。英雄的レニングラード防衛戦と1941~1944年の間のレニングラード攻防戦でのナチス・ドイツ軍の潰滅を記念して、市の周縁部に『栄光のグリーン・ベルト』がつくられています、そこには数知れぬほどの記念建造物が含まれています。

戦後、レニングラードは自らの傷をいやし、ネフスキー大通りやその他の通り、広場などが、すっかり元通りの華やかな姿をとりもどしました。70発以上もの爆弾と砲弾をうけた旧海軍省の建物も、今では元のままの華麗な姿を誇っています。街の復興には、多くの力と資材、多くの復元技術者の労働と手腕が注がれました。奇蹟ともいえるのは、ファシストたちの野蛮な破壊をうけたレニングラード郊外地区の復興ぶりです。すばらしい宮殿庭園のアンサンブルであるペトロドゥオレット、プーシキン市、パープロフスク市など、その美しさは何世紀にもわたってロシ

巡洋艦『オーロラ号』



アの優秀な建築家や彫刻家たちがつくりあげてきたものです。

これらのすばらしい名所を簡単に訪ねてみることにしましょう。

レニングラードから29キロメートルはなれたフィンランド湾の岸辺にあるペトロドゥオレットは、かつてベテルゴフとよばれていました。ここは、ペートル一世の公邸でした。この宮殿の建設は、「栄あるベルサイユに劣らぬ」宮殿を持ちたいと考えていたツァー自身が発想によるものです。

アンサンブルの中央に位置する建物は、ワルフォロメイ・ラストレーリがつくった、素晴らしい大宮殿です。その前庭には、世界にも類のないほど大規模な階段式の大噴水があります。一度に64個の噴水が水をふきあげます。

18世紀のすぐれた庭園造園技師の模範

ラズリフ

とされるのがプーシキン市の広大な公園で、その宮殿もロシア・バロココ建築のユニークな記念碑です。円柱、アトラスの像、奇妙なマスク、バルコニーの透し彫りなどが、この宮殿の美しさをひきたてています。大ホール、絵画ホール、こはくホールなどの広間のインテリアもおもしろいものです。

この街は偉大なロシアの詩人アレクサンドル・プーシキンの名をとって街の名にしているが、それはプーシキンがここのツァルスコセリスキー男子貴族学校で学んだことからきています。

パープロフスク市の宮殿博物館は、戦後ソビエトの復元者たちにより完全に復元されました。今日、ここを訪れると、アレクサンドル・ボロニーヒン、





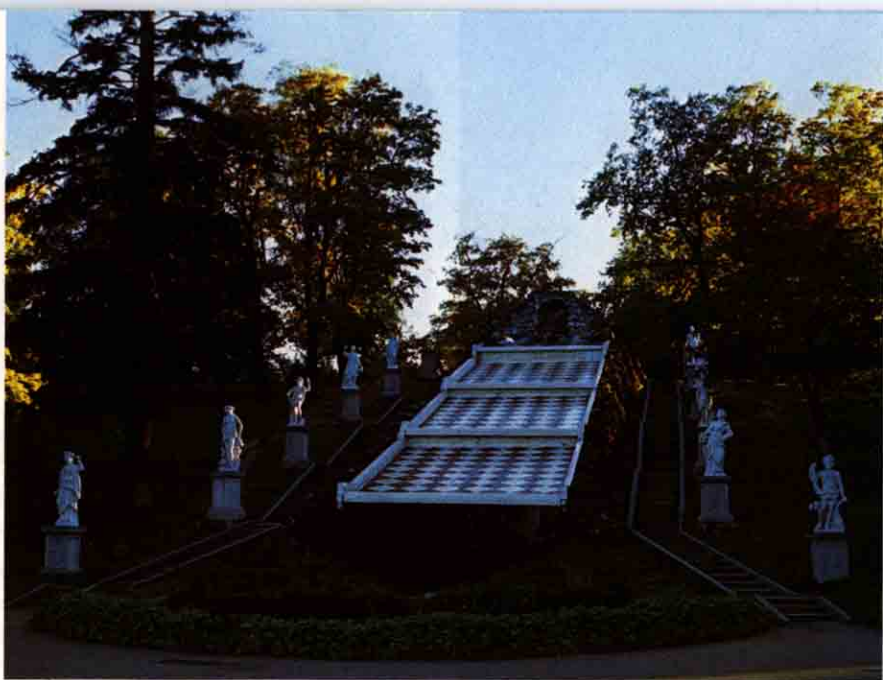
プーシキン市・アレクサンドロフスキー公園とアレクサンドロフスキー宮殿 ▶

プーシキン市

カール・ロッシ、イワン・マルトスらが残した建築をそのままの姿で観賞することができます。パーブロフスク公園はヨーロッパにある名園のひとつです。洗練された宮殿のシルエット、一風変わった噴水の水の形、黄金色の像、樹々や植え込みのみどりなど、建築と彫像と造園術が織りなす見事な組み合わせは、文字通り奇蹟的で信じられない風景です。

エカテリンスキー公園で









レニングラードのもうひとつの奇蹟は、  
白夜です。6月、白夜が始まると街全  
体が明りで包まれます。この明りは、  
おだやかなネバ川の水面や、花崗岩で  
固められた川岸通り、数千年前のスフ  
ィンクスや巨人アトラスの石像を浮き  
立たせ、イサアキエフスキー寺院の円屋根  
を幻想的な輝きで包みこみ、夏公園の  
奇妙な形の棚をくぐりぬけ、奇蹟はま  
さに最高潮となります。それまであな  
たに縁のなかったこの街が、急に親し  
く身近かなものになります。というの  
は、このような白夜のレニングラード  
は特に美しく見えるし、その美しさが、  
親しみと身近かさをうみ出すからです。  
白夜、それは恋人たちや詩人たちの時  
間です。それは、「白夜」とよばれてい  
るすばらしい芸術祭の時期（毎年6月  
21日から29日まで）であり、レニン  
グラードの舞台からだけでなく、ソ連全  
土のすぐれた芸術家やスターたちが参  
加します。

インツーリストは、心からあなたをレ  
ニングラードにお招きします。そして  
あなたの旅の楽しさを願っています。  
ソ連旅行に必要な情報は、外国にある  
インツーリストの支社、ソビエト通商  
代表部、ソ連旅行のお世話をする旅行  
代理店にお問い合わせ下さい。または  
直接下記のインツーリスト本社にご連  
結下さい。

103009, Moscow, Marx prospect, 16  
☎: 203-6962  
テレックス: 411211

エカテリナ公園



# もしもあなたが、



※忘れられない旅に出ようとされるなら、  
※いつまでも思い出に残るような休暇をすごしたいとお考えなら、  
※あるいはまた、ビジネスとリラックスした休息をかねた旅を計画されるならば、

ソ連の旅客船をご利用下さい！

ゆったりした船室、澄み切った水のプール、第一級レストランの豪華な食事、ミュージカル・サロンでの楽しい夕べ、最新のスポーツ・ホール、居心地よいバーなどが、あなたをお待ちしています。

## ソビエトの客船をご利用下さい！

伝統的なロシアのホスピタリティと最高水準のサービスを約束します。

お問い合わせは下記にどうぞ：

USSR, Moscow, 113114, Kozhevnickeskaya, 19

ケーブル：MORPASFLOT MOSCOW

テレックス：411134



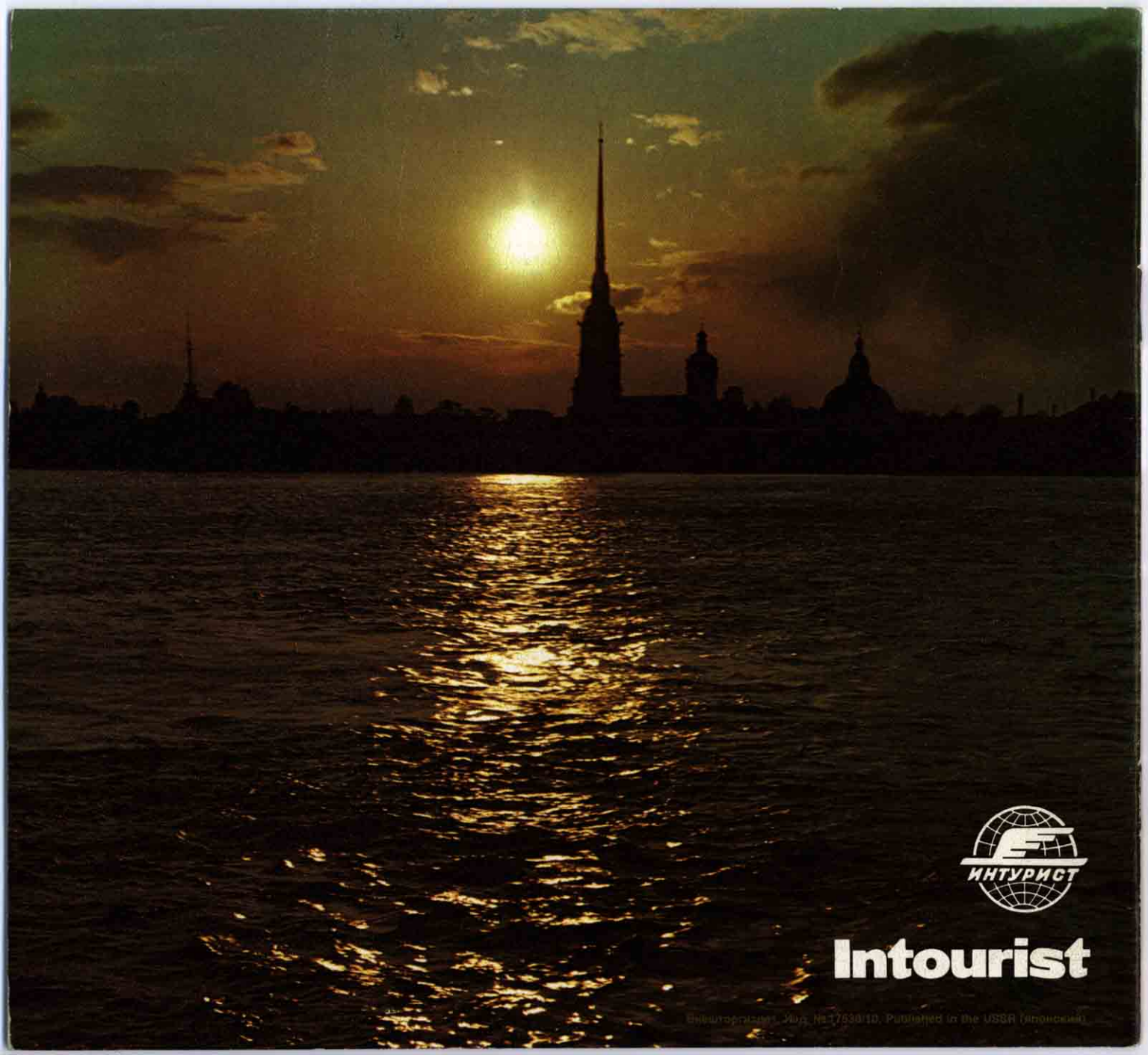
すべての大陸へ  
アエロフロート・ソ連航空で！

### ソ連通過旅行のお客様へ！

日本からヨーロッパの各国へ旅行される場合、ソ連経由が最短距離で、最も便利なコースです。あなたは、モスクワでひと休みしてから旅をおつづけになれます。

ソ連通過の空の旅について、詳しい情報は、アエロフロートのどこの支社、または代理店でも得られます。





**Intourist**